

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 群馬県 】

学校名【 群馬県立あさひ特別支援学校 】

| | |
|------------------------|--|
| 1 実践テーマ | ①・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ⑤（複数選択可） |
| 2 実施対象者 (学年・人数) | 群馬県立あさひ特別支援学校 小学部1～6年 32名 中学部1～3年 34名 高等部1～3年 28名 |
| 3 展開の形式 | (1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育) ② 行事名 (実技講習会 講演会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 (全国ボッチャ選抜甲子園出場) |
| 4 目標 (ねらい) | 児童生徒のオリンピック・パラリンピックへの興味関心を向上させ、スポーツの価値への理解を深めるとともに、自ら挑戦しようとする心を育む。 |
| 5 取組内容 | ○実技講習会（6月） 「トップアスリートによる実技講習会」 講師：平成22年度本校の卒業生 周藤穂香さん 穂香さんの母親でアシスタント 美保さん 内容：ボッチャ体験および実技講習会 本校のボッチャチーム「Sun Rise」との親善試合 ・親善試合では周藤さんの圧倒的な実力に参加者全員が感動。Sun Riseのメンバーには、よい刺激となった。 ・小学部から高等部まで希望者がボッチャの体験。Sun Riseは周藤さんから競技力向上を目指した指導を受けた。 |



周藤さんによるボッチャ指導



周藤さん VS Sun Rise



ボッチャ体験

○第4回全国ボッチャ選抜甲子園出場（8月）

・4月に今年度のメンバーを決定し、練習を始めた。出場が6月に決定してからは、授業以外にも時間を設定し練習を行った。周藤さんの実技講習会では、他の生徒とは別に、甲子園出場生徒に対して実技指導および、その後の練習方法の指導もしていただいた。

・昨年度を上回る、ベスト8という結果を残すことができた。



○講演会（11月）

「元ボッチャ日本代表選手 周藤穂香さん講演会

～夢をあきらめない～

講師：平成22年度本校の卒業生 周藤穂香さん

穂香さんの母親でアシスタント 美保さん

内容：講演会 「夢をあきらめない」

本校のボッチャチーム「Sun Rise」との親善試合

ボッチャ体験(周藤さんの道具を使って)

・周藤さんがボッチャを始めたきっかけからこれまでの活躍や世界で活躍するボッチャの選手、また、周藤さんと共に練習をしている選手を写真や映像を交えて話をしてくれた。

・親善試合では、前回のリベンジを誓ったSun Riseだったが、またしても圧倒的な力の差を見せつけられた。

・ボッチャ体験では、周藤さんが試合で使用する道具を使わせてもらったり、児童生徒が周藤さんと対戦したりした。児童生徒からの質問にも丁寧に答えてもらった。



生徒からの質問

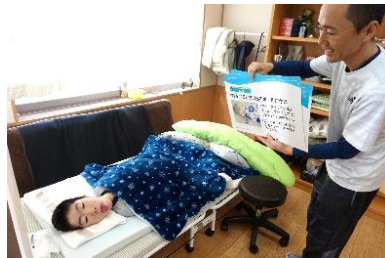


周藤さんの道具を使った
体験会

○保健体育 オリンピック・パラリンピック教育（2学期）

・国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」を活用した授業を行った。（中学部Ⅰ課程(準ずる教育)および高等部Ⅱ課程(知的代替)）

・パネルや映像教材を利用して、オリンピック・パラリンピックの歴史や種目、出場選手について学習をした。



6 主な成果

○これまでも授業でボッチャに取り組んでいたが、レクリエーションとしてのボッチャだけではなく、競技ボッチャへの興味をもつ児童生徒が増えた。実際に群馬県障害者スポーツ大会では小学部、中学部、高等部からボッチャに出場する児童生徒が増えた。レクリエーションだけではなく、競技としてのスポーツにも興味をもち、挑戦したいという気持ちを表現できる児童生徒が増えた。

○本校の卒業生という、身近にパラリンピック出場を目指す人がいることを知り、交流をしたことでパラリンピック及びパラリンピアンに興味をもつ児童生徒が増えた。

○「I'm POSSIBLE」で取り上げられていた選手の名前を覚えて、「テレビに出たら応援します。」と感想を発表した生徒がいた。パラリンピックへの興味・関心が高まった。

| | |
|----------------------------------|--|
| <p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p> | <p>○本校の卒業生という、児童生徒にとって身近なアスリートを講師として招いたことで、児童生徒の興味・関心を高めやすい環境を整えた。</p> <p>○講演の中で、話を聞いたり、映像を見たりするだけでは理解が難しい児童生徒が多いという本校の実態を踏まえ、実際に体験や指導を受ける機会を設定した。</p> <p>○全国大会を目指す生徒が、パラリンピックを目指す卒業生に指導をしてもらう様子を、その他の児童生徒が見学することで、競技ボッチャに対する興味・関心が高まるようにした。</p> |
| <p>8 主な課題等</p> | <p>○年度の途中で講演会等を企画し、日程調整をしたために、児童生徒によっては見通しをもちにくい状況になってしまった。講師の選定を含めて、早めに計画できると良かった。</p> <p>○講演会と「I'm POSSIBLE」を別の企画として取り組まずに、事前事後も含めて、合わせて行えると良かった。</p> |
| <p>9 来年度以降の実施予定</p> | <p>現時点で来年度の内容は未定であるが、ボッチャの指導は継続予定である。在校生の中には全国大会を目指す生徒もいるので、今年度同様、ボッチャを中心として、オリンピック・パラリンピックを通して、スポーツの価値への理解を深める取組をしていきたい。</p> |